



営農NEWS



カンショの食葉害虫ナカジロシタバやハスモン ヨトウの発生に注意しましょう

例年では 8 月後半～9 月頃から、食害痕のあるカンショ葉が目立つようになります。これは、ナカジロシタバやハスモンヨトウなどの幼虫が発生して食害したためです。特に、ナカジロシタバは、成長したら 4～5 cm になる大型の幼虫がカンショの葉を暴食し、葉柄だけを残して食べつくしてしまうことがあります。このため、秋に多発生すると減収しますので注意が必要です。また、餌を求めて移動する際に民家等に侵入し、不快害虫として問題になることもあります。

病害虫発生予報 8 月号（県病害虫防除所）によりますと、7 月下旬現在、ナカジロシタバは平年よりやや多い発生、ハスモンヨトウは平年並～やや多い発生と予想されています。なお、向こう 1 カ月の気象予報（8 月 11 日発表）によりますと、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いと予想され、幼虫の発生を助長する条件と考えられます。

これらの幼虫は齢期が進んで老齢になるほど、農薬に対する抵抗力が高まり、防除効果が低下するため、若～中齢の早い時期に薬剤防除することで安定した防除効果が期待できます。

8 月後半～9 月にかけて圃場の発生状況をよく観察し、発生に応じて防除に努めてください。

【ナカジロシタバの発生生態】

ナカジロシタバは年 3 回世代を繰り返します。9 月上旬頃から発生する第 3 世代幼虫の発生量が最も多くなります。成虫は夜間に飛び回り、葉の裏に卵を産み付けます。ふ化した若齢幼虫は、つる先の若い葉を好んで食害します。中～老齢幼虫になると、昼間は茎葉の陰などにひそみ、夜間に活動して、葉脈だけを残して暴食するようになります。成熟した幼虫は土中にもぐってマユをつくり、その中で蛹になります。

＜防除対策のポイント＞

- 1 ナカジロシタバの防除時期は、丸く穴の開いた葉が散見される～面積の四分の一くらいが食害されている葉が目立つ時期（幼虫の若～中齢期）に行います。また、ハスモンヨトウでは、かすり状に食害された葉が散見される～幼虫が分散する前（若～中齢期）に薬剤散布を行いましょう。齢期が進んで老齢になるほど、薬剤の防除効果が低下する傾向があります。
- 2 薬剤防除の際は、幼虫が日中に潜んでいる場合が多い葉裏や株中にまで、薬液が十分かかるように丁寧に散布しまししょう。

表 1 カンショ食葉害虫 ナカジロシタバ、ハスモンヨトウの主な防除薬剤（平成 28 年 8 月 18 日現在）

薬 剤 名 （主な系統名）	ナカジロシタバ	ハスモンヨトウ	希 釈 倍 数	使用時期 / 使用回数
アニキ乳剤（マクロライド）	○	○	2,000～3,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
アクセルフロアブル（その他）	○	○	1,000～2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
トルネードエース DF（その他）	○	○	2,000 倍	収穫 7 日前まで / 2 回以内
フェニックス顆粒水和剤（ジアミド）	○	○	2,000～6,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内
オリオン水和剤 40（カーバメイト）	○	○	1,000 倍	収穫前日まで / 5 回以内
ラービンフロアブル（カーバメイト）	○	○	750～1,000 倍	収穫 3 日前まで / 3 回以内
トレボン乳剤（ピレスロイド）	○	○	1,000 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内
アグロスリン水和剤（ピレスロイド）	○	○	1,000～2,000 倍	収穫 7 日前まで / 5 回以内
マッチ乳剤（IGR）	○	○	2,000～3,000 倍	収穫 14 日前まで / 2 回以内
ノーモルト乳剤（IGR）	○	○	1,000 倍	収穫 7 日前まで / 2 回以内
〃		○	1,000～2,000 倍	

注）（系統名）IGR 剤は、他系統剤に比べ殺虫効果の発現に比較的時間がかかるため、散布時期を早めにしてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※ JA 全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040